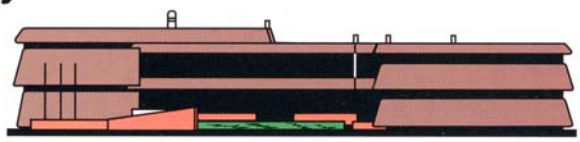
苫小牧市 博物館だより

2004. 3

No.53



菅原　勇「工場地帯への道」1993 年

第 12 回企画展

郷土の画家たち展

～自然・街・心象～

2004年2月28日(土)～4月4日(日)

苫小牧市博物館・特別展示室

開館時間：午前９時30分～午後５時／休 館 日：毎週月曜日、３月２０日

郷土の自然や移りゆく街の姿、心の中に浮かび上がる心象世界を個性豊かに描いた12人の画家。多様なメッセージを発し、見る者に安らぎと不安を与える作品世界の根底に流れているのは、生あるものへの愛であり、人間存在の哀しみではないでしょうか。本展では、苫小牧の美術界に大きな足跡を残された画家と現在活躍中の画家の作品22点を展観します。

＜自　然＞

岡本重雄、金子　正、木下知子、中丸茂平の各氏は樽前山･湿原･美々川など郷土の自然に、深く感情を移入、四季折々の表情をとらえ、そのかけがえのない魅力を繊細な筆遣いと生き生きとした色彩で､わたしたちに伝えてくれます。

岡本重雄「早春樽前」1992年

＜　街　＞

変貌著しい苫小牧を、菅原　勇氏はスーパーリアリズムで、二階堂昊氏はすばやい筆触と強烈な色彩で、横山順一郎氏は温かな写実で描いています。コンクリートの地面、風吹く街、港のある街、その風景からはこの町の行く末までも見えてくるようです。

二階堂昊「風景」1992年

＜心　象＞

わたしたちの心の中を映すかのように、高橋伸氏は引き裂かれた自我を、北川　豊氏は不安と平安の共存を、加藤　亘氏は人間性の不在を告発し、居島恵美子氏は喧騒な日常生活に訪れた優しい旋律を、いわばもうひとつの現実を描いています。

～主な展示作品～

岡本重雄「浜厚真の冬」
金子　正「秋麗樽前山」1992年
木下知子「湿原・美々川」1993年
中丸茂平「湿原」1987年
菅原　勇「安全地帯」1990年
二階堂昊「赤い鉄橋のある風景」1995年
横山順一郎「苫小牧港」1997年
北川　豊「黄昏」1974年
加藤　亘「投影」
居島恵美子「小休止」2003年
内潟光尚「兆し」1975年

高橋　伸「SITUATION」1988年

川上澄生の世界

～南蛮文化・文明開化・苫小牧～

７月26日（土）から８月31日（日）まで、第47回特別展「川上澄生の世界」が開催されました。明治の文明開化や南蛮風俗の世界を詩情豊かに表現した版画家で詩人の川上澄生は、昭和20～23年、旧制苫小牧中学校に勤務しています。その間、北海道や苫小牧の風物を題材にした数多くの版画や詩を制作しています。

本展では、親交のあった山下正氏のコレクションの中から、代表的なもの約130点が展示されました。

開会式・テープカット

「南蛮ぶり」1955 年

南蛮文化

南蛮船図や蛮船入津、南蛮ぶりなど、南蛮ものは川上芸術の大きな特色といえます。ガラスに描かれた騎士と天使、革絵の胸中の地図など貴重な逸品を含め40点あまりが展示されました。

「ランプ」1941 年

文明開化

明治文化のちぐはぐさにエキゾティシズムを感じた澄生は、文明開化ものも数多く手がけています。なかでも洋燈は繰り返し作品化されています。ランプや時計、へっぽこ先生でおなじみの柔げれすいろは人物など 45 点あまりが展示されました。

版画集「苫小牧」1948 年

苫小牧

戦禍を逃れ、妻の実家のある北海道に疎開した澄生は、樽前山や版画集苫小牧（５枚組）など身近な風景のほかに、あいのもしりなどアイヌの風俗を題材にした作品を手がけています。また、山下正氏との親交を知るハガキやクリスマスカード、蔵書票や年賀状の版木など貴重な資料 50 点あまりが展示されました。

博物館の行事から

◆博物館大学講座◆

平成15年度の大学講座は、５月１７日（土）に入学式を行い、自然部門４回、芸術部門１回、考古・民族部門２回、歴史部門２回の講演会が下記のように実施されています。

自然部門では３回にわたり、北海道大学苫小牧研究林の特集が組まれ、生態系の中での森林の役割などについて、また、芸術部門では開催中の特別展「川上澄生の世界」に関連して、川上芸術の魅力について講演が行われました。

考古部門では北海道の最古の人類足跡を探り、民族部門では松浦武四郎の足跡をたどり、アイヌコタンの変貌に迫りました。

歴史部門では、苫小牧のイワシ漁や生活の様子を聞き取り調査から紹介し、幕末から明治にかけて北海道で行われた藍栽培の歴史について学び、２月21日（土）には卒業式が行われました。

◆見学会・観察会◆

芸術探訪と史跡見学・体験教室が実施されています。

芸術探訪は７月30日（土）、小雨の降るなか30名の参加者がバスに乗り込み、札幌芸術の森へと向かいました。目的地に着く頃には雨も上がり、クラフト工房では「サンドブラスト」技法による、すりガラス模様の丸皿作りを行い、その後、野外美術館と芸術の森美術館の２グループに分かれ、それぞれ観覧しました。

史跡見学・体験教室は９月13日（土）、20名の参加があり、台風の影響の残るなか伊達市の国指定史跡北黄金貝塚へと向かいました。現地ではワークシートを行ったり、解説ボランティアの説明を受けた後、シカの角で釣り針作りを体験しました。硬い素材に悪戦苦闘しながらも、アクセサリーにも使えそうな出来栄えに満足されていたようです。

釣り針づくり

◆公開講座◆

北海道開拓記念館との共催事業、とびだせ開拓記念館！平成15年度第１回公開講座「北海道にみられる１万年前以降の温暖期とその古環境」が、７月５日（土）文化交流センターを会場に開催されています。

北海道開拓記念館の赤松守雄・添田雄二・右代啓視・山田悟郎の各氏のほか、博物館からは荒川忠宏学芸主査が「貝化石群集にみる苫小牧の古海峡の変遷」というテーマで講演しています。

◆地球環境学習セミナー◆

地球の環境問題をアジアの一員として、現代的視点で考える基礎講座が、吉田国吉館長を講師として下記の日程で開催されています。

①10月18日（土）
「アジアの地球環境問題」

②11月22日（土）
「アジアの自然の成り立ち」

③12月20日（土）
「熱帯雨林の生物多様性とその危惧」

◆土曜ミュージアム◆

学校週５日制に対応して平成14年度から実施されている土曜ミュージアムでは「紙とあそぼう」と題して、今年度から前期（４～９月）は紙の工作教室、後期（10～２月）は紙すき体験教室を実施しました。

紙の工作教室は、動物や車・建物が印刷された紙をハサミで切り取り、ノリを使って立体的に仕上げるというもので、420名ほどの参加者がありました。

紙の工作教室

初めてということで、題材に苦労することもあり、試行錯誤を繰り返しながら、子供たちが楽しく遊べるように工夫していきたいと思います。

紙すき体験教室は、牛乳パックを利用した手漉きハガキ作りで、250名ほどの参加者がありました。２年目ということもあり、リピーターも多く、次第に定着してきた感があります。色を重ねて、文様を浮かび上がらせるものや自前の絵を漉きこむなど、手のこんだものが作られています。

紙すき教室

◆土曜体験教室◆

博物館的なもの作り教室を７回実施しています。内容と参加者は下記のとおりでした。

「うちわづくり」
　参加者　16名
「博物館写生会」10月18日
　参加者　３名
「土器づくり」　11月29日
　参加者　20名
「年賀状づくり」12月13日
　参加者　19名
「干支づくり」　12月20・21日
　参加者　32名
「勾玉づくり」　2月28日
　参加者　24名
「化石レプリカづくり」
　3月27日実施予定

土器づくり

干支づくり

◆郷土学習◆

市内の小学３・４年生を対象に、博物館の豊富な資料を活用して、郷土苫小牧の歴史の移り変わりを学習したり、昔の道具に直接触れる体験学習を行っています。

苫小牧の自然や歴史を学ぶ展示学習では、昔の道具が何に使われたのかを考えたり、アイロンの歴史を知るクイズコーナーを設けています。

体験学習では、石臼を使って実際に粉作りを体験することによって、先人の努力や工夫が実感できるようにしています。

最後にクイズコーナーの答え合わせや質問の時間を設け、理解を深めるようにしています。

本年度は46学級、約1,500名の児童が参加しました。

友の会通信

「縄文土器づくり講座」

会員の佐藤恒也さんを講師に迎え、８～９月に３回シリーズで行われました。

１回目は縄文土器の文様の基本となる縄文原体づくりに挑戦し、粘土板を使って実際に文様付けを行いました。２回目は地下収蔵庫にある完形土器を観察し、形や文様の特徴を調べて、ミニチュア土器づくりを行いました。３回目は３㎏の粘土を使った縄文土器づくりに挑戦です。作品は野焼きを行い、11月の「ミニ縄文展」で展示しました。

「移動する種子のふしぎ」

10月11日に理事の揚妻芳美さんを講師に迎え、植物の種子について学習しました。

まず始めに、「種子」とは何か。柿の種と卵を見本に説明を受けた後、種子にはどのような形態があるのか。また、その移動方法について、答合わせをしながら考えていきました。

最後は水に浮かぶのはどれかを実験し、植物の種子のふしぎについて、実体験を通した学習を行いました。

「野鳥観察会」

11月１日に理事の佐藤辰夫さんを講師に迎え、緑ヶ丘公園や金太郎の池周辺を歩きながら、この時期に見られる野鳥を観察しました。

初めに、双眼鏡や図鑑類の使い方、コースの説明を受けた後、２時間あまりの散策コースへ出発しました。この時期野鳥の種類は多くはありませんでしたが、鳴き声や飛び方による判別法などが紹介され、最後には参加者全員による「鳥合わせ」を行いました。

「宮大工・木組みの巧み」

１月17日に理事の佐田正行さんを講師に迎え、木組みの技法を用いたミニ看板づくりを行いました。

最初に、木組みの仕組みや製作手順が説明され、それぞれ製作にかかりました。今までに曲尺や鋸などを使ったことのない参加者もいて、材料の墨付けや鋸や鑿を使っての細かい作業に、ちょっと手こずる場面もありました。

参加者から次回開催を望む声も聞かれました。

寄贈資料一覧

（平成 15 年3月～平成 16 年2月）

資　　料　　名	数　量	住　所	寄　贈　者
油彩画・坊坂博作「紅葉」	1	苫小牧市	馬渕美枝子
文献「心のふるさと　祈りの山」、絵葉書「八王子十八景」	2	〃	佐藤　秀文
唐三彩（現代物）	1	鵡川町	山本　久一
ＣＤ「ホッキ音頭　とまこまい」	1	苫小牧市	高野　幸康
白金懐炉、脱脂綿入れ	3	〃	大岩　洋子
8㎜映写機、8㎜撮影機、8㎜エディター、ハンディビューワー他	6	〃	柴田　正朋
土佐鋸、竿秤り、石臼、ランプ	4	〃	福江　清
マンガン、袋網	2	〃	杉山　金一
白黒テレビ（サンヨー）	1	〃	田守　信男
小鉢、長皿、酒器、湯呑み、マグカップ	10	〃	中根　洋男
市営バス運行路線図、早来バス時刻表、観光パンフレット、写真他	10	〃	柴田　正朋
銅鍋、矢立、煙管、天王寺鋸、一升枡、湯沸し、火掻き棒他	13	〃	斉藤　登
五月人形	1	〃	なかの保育園
まさかり、墨壷、水準器、サイレン、算盤、牛乳攪拌器他	12	〃	木村かよ子
綱打ち具、櫓、窓鋸	3	〃	熊谷　利吉
包装紙（福々食堂）、蒸籠、保温皿、ラーメンどんぶり、箆他	19	〃	斉藤　留蔵
火鉢、火掻き棒、灰ならし	3	〃	保志　宗一
小型レコード、ＳＰレコード、ＥＰレコード、ソノシート	18	〃	日野　一男
油彩画・居島恵美子作「小休止」、「朱い実の詩」	2	〃	居島恵美子
竿秤り	1	〃	綿屋　経智
SP レコード、LP レコード、キンケイ（剥製）	11	〃	縄野　善一
書籍「川上澄生全集」（全14巻）	14	〃	阿部　成子
ワープロ、強力パンチ、書籍「表装技術講座一式」	3	〃	小野　慶郎
掛け軸、扁額、屏風、箱火鉢、刳り抜き火鉢	18	登別市	中嶋　博子
トラ（剥製）	1	苫小牧市	荒澤　義範
掛け軸	1	〃	阿部トク子
一斗枡、稲刈り機、手押し除草機、播種器、卓袱台	7	鵡川町	上田　正
Ｔシャツ、オレンジカード、テレフォンカード	5	苫小牧市	佐藤　秀文
両刃	1	〃	柴田　正朋
ワニ（剥製）	1	〃	斉藤儀太郎
冊子「ラスムッセン生還記」	1	〃	本間　敏彦
鉄瓶、すりこぎ、羽釜、氷削り器、携帯ガスコンロ、三三九度用杯	6	〃	壺内チエ子
複製ブロンズ像	4	〃	坂本　英雄
裁ち板、竹尺、コテ、くけ台、アイロン台	7	〃	谷岡　和枝
冊子「高尾山薬王院」、団扇、暦	9	〃	佐藤　秀文
土器片	10	〃	山本　融定
油彩画・本間武男「小樽運河」	1	〃	斉藤　ツル
各種スケート大会記念バッチ、メダル、ペナント、ネクタイピン他	137	〃	友成　喜代
SP レコード、LP レコード	59	〃	豊口　克之

月別入館者数

（平成 15年3月～平成 16 年2月）

	個　人					団　体					合　計
	大　人	高校生	小　人	幼　児	小　計	大　人	高校生	小　人	幼　児	小　計	
3月	633	8	559	104	1304	30				30	1,334
4月	397	10	641	60	1,108			82		82	1,190
5月	1,096	14	766	197	2,073	318		117		435	2,508
6月	653	4	352	50	1,059	54		434	43	531	1,590
7月	1,052	5	436	98	1,591			960		960	2,551
8月	2,185	27	745	174	3,131	47		216		263	3,394
9月	490	5	506	70	1,071			382		382	1,453
10月	459	8	330	94	891	210		642		852	1,743
11月	819	26	514	148	1,507			561		561	2,068
12月	262	1	259	20	542					0	542
1月	307	2	157	49	515					0	515
2月	421	0	181	49	651			74		74	725
合計	8,774	110	5,446	1,113	15,443	659	0	3,468	43	4,170	19,613

展示室から　　開拓の歩み　～魚油・〆粕製造装置（写真）～

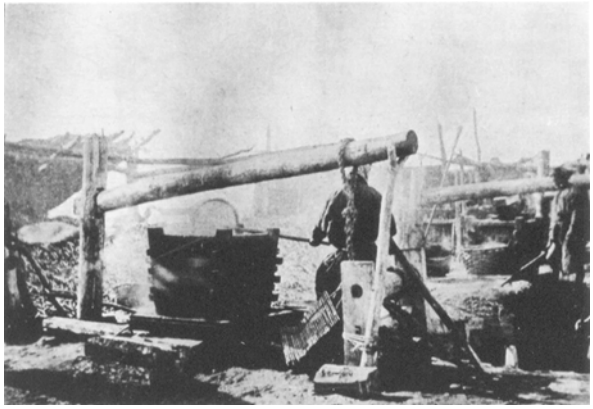
この写真は明治時代の後半、苫小牧沿岸で行われていたイワシの〆粕製造の様子です。

苫小牧沿岸では江戸時代終わり頃からイワシの〆粕造りが始まり、明治時代初めには「樽前浜」の〆粕として有名になるほど、盛んに〆粕製造を行っていました。

捕れたイワシは、直ちに大きな釜で煮られ、「胴・〆胴・魚胴」などと呼ばれた中央に見える木を四角に組んだ搾り器に移されます。左端の柱には搾木と呼ばれる横木が通され、その一端にかけた〆縄をろくろで締めつけながら、胴の上に乗せた石に重圧をかけていきます。

この時、魚油がでます。これも油樋を通じて油槽に貯められ、灯油や石鹸の原料として使われています。できあがった粕は、胴を逆さにして取り出し、筵の上で細かく砕き、天日乾燥させ、桑や綿などの作物の肥料として出荷されました。

写真は、煮上がったイワシを大網ですくい上げて、胴の中に入れているところです。この角胴は固定式で場所をとるため、やがて移動可能な鉄製の丸胴へと変わっていきました。



ー平成16年度の行事予定ー

○特別展・企画展

トヨタ自動車北海道㈱主催「日本画展」４月24日～５月16日
第48回特別展「砂田友治展」７月17日～８月29日
第13回企画展「動物意匠展」３月12日～４月10日

○土曜ミュージアム

「紙と遊ぼう」　毎週土曜日午前10時と午後２時の２回
４月～９月　「紙の工作教室」　　10月～２月　「紙すき教室」
「昔の遊びをしよう」毎週土曜日。10種類の昔の遊びを体験。

○土曜体験教室

親子で作るものづくり教室。定員40名。
８月21日「貝の風鈴づくり」
９月25日「流木で動物づくり」
10月30日「釣り針づくり」
11月27日「木の実でつくるペンダント」
12月４日「粘土でつくるクリスマスリース」
１月22日「石に描こう」
２月26日「樽前山の立体模型づくり」
３月26日「土偶づくり」

○観察会・見学会

バス見学。定員40名。
７月31日「博物館巡り」栗山町の王子製紙森林博物館、ファーブルの森、北の錦記念館を見学。
10月23日「歴史見学会」北海道開拓の村で歴史的建物を見学。

職員動向

○昇格　６月９日付　　学芸主査・荒川忠宏
○転出　６月９日付　　主任主事・橋本真澄（国保課国保係）
○転入　６月９日付　　主任主事・隅広徳子（港管理組合）

苫小牧市博物館だより
平成16年３月16日発行・第５３号　〒053－0011　苫小牧市末広町３丁目９番７号
編集・発行　苫小牧市博物館　TEL　（0144）35－2550～2552